

# 週間市場レポート

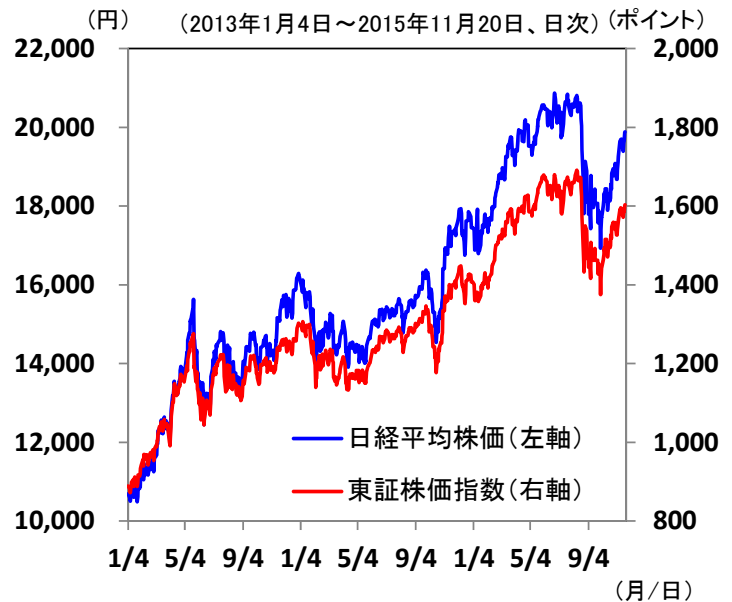
## (2015年11月16日～20日)

### (1) 日本の株式・債券市場

#### 株式市場の動き

■先週の日本株式市場(日経平均株価)は、週初はフランスの同時テロや7～9月期の国内総生産(GDP)が2期連続でマイナス成長になったことなどから売られました。その後は、米利上げ時期を巡る不透明感の後退から欧米やアジアの株価が上昇し、円安が進行したことなどを受けて堅調に推移しました。19日(木)には場中に1万9,959円と2万円の目前まで上昇する場面もありました。20日(金)は、短期的な上昇への警戒から売りが多かったものの、景気対策への期待から買いが優勢となり小幅上昇して引けました。(週末引け値:19,879.81円)

■週間では、日経平均株価は1.44%の上昇、東証株価指数は1.09%の上昇でした。

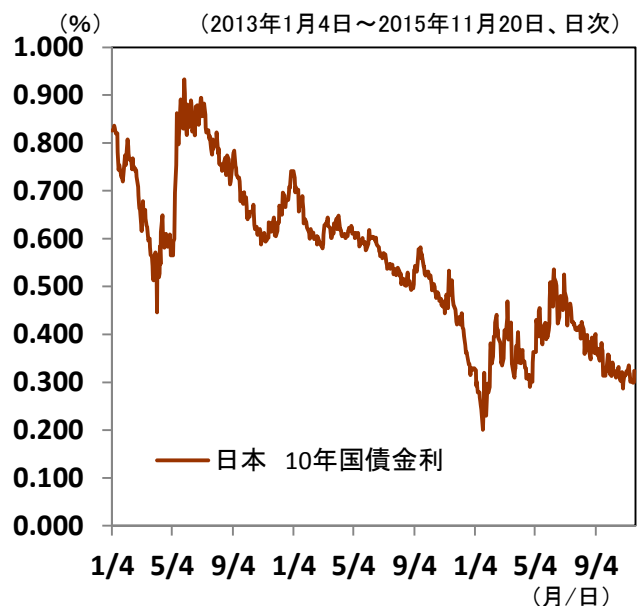


出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

#### 債券市場の動き

■先週の日本債券市場(10年国債金利)は、週後半にかけて日銀買入れや順調に通過した5年債入札などから好需給が意識されて、買われやすい傾向が継続しました。一方で、新たな材料も乏しく、上値では売りもあり、金利は0.300%前後で横ばいの推移となりました。20日(金)は、連休を控えたポジション調整や日銀の12月買入れ額への思惑などから売りが優勢となり、金利は上昇しました。(週末引け値:0.324%)

■週間では、10年国債金利は0.019%の上昇でした。



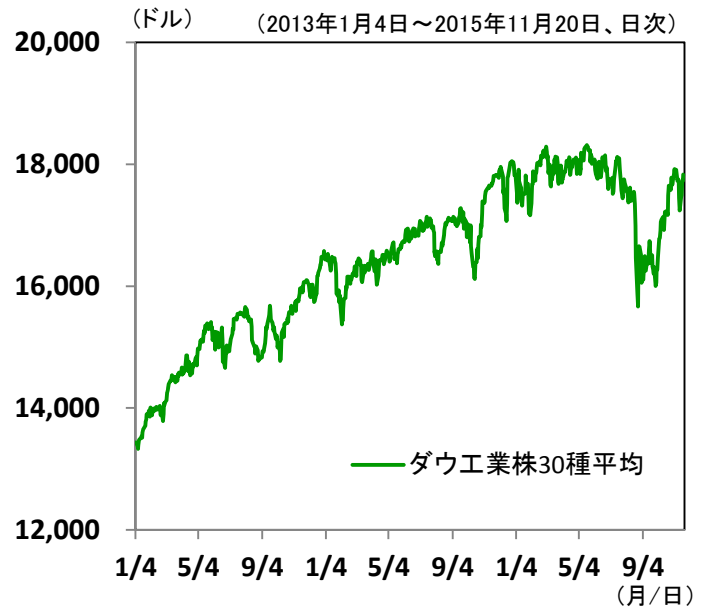
出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

■先週の米国株式市場(NYダウ)は、16日(月)は、フランスでの同時テロを受けて売られる場面がありました。その後は、欧州中央銀行(ECB)の追加緩和策期待を受けた欧州株高や米利上げ時期を巡る不透明感が後退したことなどから堅調に推移しました。米国経済指標はまちまちであり材料とならず、良好な業績の主要企業への買いが中心となって相場を支える動きとなりました。(週末引け値:17,823.81ドル)

■週間ではNYダウは3.35%の上昇となりました。



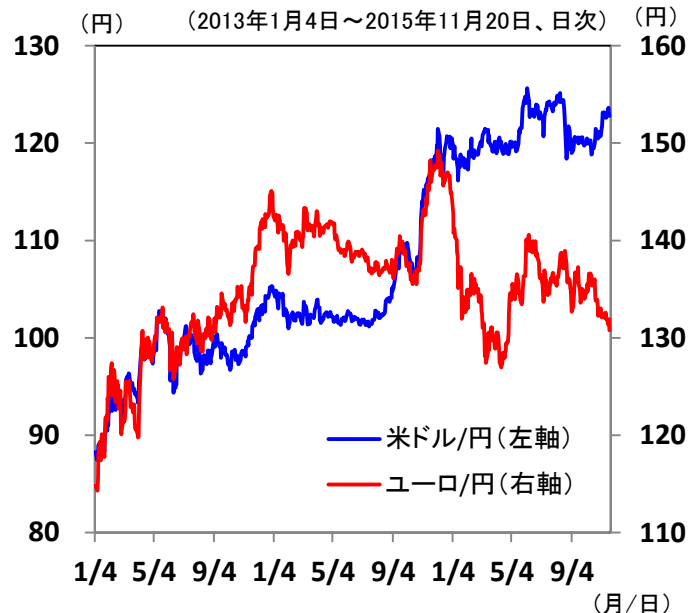
出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

■先週の米ドル/円相場は、週半ばまでは12月の米利上げ観測や米株高、日本の7～9月期国内総生産(GDP)の2期連続マイナスなどから円安傾向となりました。18日(水)は、一時約3か月ぶりの安値である123円70銭台まで円安が進みました。その後は、米利上げペースへの思惑やドル高進行の早さに対する警戒感からドル売りがやや優勢となりました。週末にかけては、各国の金融政策への思惑が交錯して122円台後半で横ばいとなりました。(週末引け値:122円85銭～95銭)

■週間では米ドル/円は0.16%の円安、ユーロ/円は1.00%の円高となりました。



出所:ブルームバーグのデータをもとに  
ニッセイアセットマネジメントが作成